

<h1>議事録</h1>	<b>作成日</b>		平成 29 年 6 月 13 日 (火)		<b>作成者</b>		下坂
	部長	所長	課長	参与	係長	係	
<b>会議名</b>	第 4 回宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画策定委員会 (庁内委員会)						
<b>開催日時</b>	平成 29 年 6 月 2 日 (金)		13:00~15:00		<b>開催場所</b>	本庁 特別会議室	
<b>参加者</b>	井上副市長・森本理事・荒谷技監・福永企画経営部長・赤井行財政改革担当部長・中西市民交流部長・近成総務部長・尾崎都市安全部長・増田都市整備部長・影山環境部長・和田教育委員会管理部長・足立上下水道局長						
<b>議 題</b>	1 事業方式 (総括) について 【継続審議】 2 整備用地 (3 次選定 (各候補地の比較評価)) の修正について 【継続審議】						

内 容	
1	<p>開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回の委員会では、事業方式について VFM の検証を行い、整備用地については 3 次選定までを行った結果を説明してもらった。今回、事業方式については前回の検証結果を踏まえ総合評価を行ってきており、1 方式に絞り込みたい。また、整備用地についても前回の 3 次選定を精査し、資料の修正もされており、1 箇所に絞り込んでいきたい。なお、審議の内容については利害関係もあるため、非公開とするとともに、資料の扱いには注意いただきたい。</li> </ul>
2	<p>議題</p> <p>(1) 事業方式 (総括) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価は、項目ごとに各事業方式を相対評価している。抽象的な表現になるが判断の考え方を追記する。</li> <li>人件費の評価内容は従来方式と比較した内容である。</li> <li>評価内容は、一般的な評価である。ただし、他事例では、評価項目ごとのウェイトに差を付けているものもある。今回は全ての項目を同列に評価している。</li> <li>PFI 方式 (BTO 方式) で VFM がマイナスとなっているのは、一般的に PFI・PPP で言われていることと異なるが、初期の建設コストが大きく、その費用を民間事業者が金融機関から借りると、金利負担が大きく VFM が小さくなってしまうためである。</li> <li>従来方式では、財政支出の変動に対しての工夫が図られない。</li> <li>民間活力を導入するメリットとしては、運営を見越した設計・建設を行うことや、長期的に薬剤等購入計画を立てることで維持管理費を下げられることがある。</li> <li>建設費が下がっている根拠は、内閣府等から示されている資料や事例等から削減率を 10% と設定している。</li> <li>事業方式は、わかりやすい整理が必要であると考えため、次回その修正を以って決める。</li> </ul> <p>(2) 整備用地 (3 次選定 (各候補地の比較評価)) の修正について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「確実性」という評価項目を入れた理由を説明しておく必要がある。</li> </ul>

## 内 容

- 収集運搬による周辺への影響は、候補地の場所によって評価が変わるため、沿道も含めて周辺として、「アクセス道路に収集車両が集中する」と表現する
- 公表する資料は、簡略化したものとするのが一般的であるが、もう少し詳細に示した方がよいため、資料編の方で根拠資料を整理する。